

大学院生奨励課題(案)

【位置付け、目的】

大学院生の優れた研究を顕彰し、推進する課題。

【実施方法】

1. 課題申請

- a) 大学院生（博士後期課程）が申請する。
- b) 所属大学の指導教員が保証人としてメンバーに加わる。

2. 申請時期

年2回の募集とし、締切時期は一般課題より1ヶ月程度遅くする（5月末、11月末）。

上記は特に継続申請前に相当量の実験を実施出来ることを考慮した。

事務処理を考慮して、通常の前締切と同時期とする考えもある。

3. 課題の有効期間

課題の有効期間は1年とする。

大学院生の成長は早いので、1年後は最初に出した計画より遙かに上の水準に達することが期待される。有効期間が1年であれば半年以上実験・解析を行った上で次の1年の計画を申請出来る。

4. 課題の審査

- a) 1回の審査での採択件数は5件程度とする。
- b) 一実験ステーション当りの有効課題は3（？）件以内。
- c) G型と同様の基準で書面審査する。
- d) 2年目以降は進捗状況等も含めて審査する。
- e) 採択された課題については、相当の確率でチームタイムを配分出来るように、通常の課題以上にチームタイム配分の可能性を考慮する。

5. 研究・教育支援

- a) 本人、指導教員の希望に基づき、相談の上でPF側教員も大学院生の指導に当たる。
- b) 採択課題の要旨、院生をweb等で紹介する(進路開拓支援)。
- c) 実験準備やPF側教員との打合せに要する旅費を一定程度支援する。

6. チームタイム配分

- a) 各チームラインにおける教育関係課題のチームタイムは利用可能チームタイムの α %以内とし、原則としてPACの評点に従い配分する。
- b) 同じ評点の場合、原則として学位取得用課題を優先する。
- c) チームタイムに空きが生じた時は優先して希望を聞く。

7. 申請者側の義務

- a) 課題終了後A4 数枚程度の報告書を提出。
- b) 学位論文を登録、提出し、PFのweb等で紹介する。
- c) PFシンポジウムで(ポスター)発表する。

1. *類似の研究課題を指導教員がG型に申請することも可能。